事を共に採用したるが如く、其の大中二年正月の條に

其別部厖〔特〕勒先在安西、亦自稱可汗、居甘州、總磧西諸城、種落微弱、時入獻見

と記せり、偖て注意すべきはかくて安西地方に據りたりし回鶻と黠戛斯との關係なり、黠戛斯は會昌二年十月使を遣して振武に至らしめし時、通鑑によれば前に引けるが如く、太和公主を回鶻に奪はれたるを憤り「今出兵求索、上天入地、期於必得」と曰ひ、又既に安西・北庭・韃靼等の五部落を得たることを述べたり、こゝに安西北庭の部落と曰ふは、勿論此の地方に於ける回鶻を指せるものなること疑無ければ、此等の回鶻は既に此の時黠戛斯の爲に併されたるものなるが如し、然れ共烏介可汗が會昌三・四年頃に於て尚安西に投ぜんとしたる事情に鑑むれば、當時此の地の回鶻が黠戛斯の下に在らざりしことは明かにして、假令此の時黠戛斯が一旦此の地方の回鶻を征服したるを事實なりとするも、其の事の只一時的現象に過ぎざりしなるべきを信じて疑はず、此の後も黠戛斯が北庭安西地方を侵しゝことは、舊唐書李德裕傳に「會昌三年二月、趙蕃奏、黠戛斯攻安西北庭都護府宜出師應拔（援之誤）」とあるによりても知るを得べし、當時黠戛斯と唐とは親善の關係に在りしのみならず、唐の安西北庭都護府が、此の頃尚此の地方に存したるものに非ることは明かなれば、其の攻安西北庭都護府と曰ふものは、必ず曾て此等の都護に屬したる地を攻めたることを曰へるものに外ならずして、思ふに又此の地の回鶻と戰ひたるものなるべし、此の如くにして回鶻と黠戛斯とは屢〻相爭ひたる結果、遂には其の勢を避けて甘州に移るに至りしものなるべきか、甘州の地は前に武后の時、漠北の回鶻が突厥に迫らるゝや、部酋獨解支に率ゐられて移住するに至りし地にして、當時尚其の部族の散居するものもありしなるべければ、安西に據りしものゝ一部は、かかる緣故に由りて此の地に入